

国立大学法人東京海洋大学

令和 8 年度職員採用案内

大学の理念、人材養成、目標

- ・平成15年10月、東京商船大学と東京水産大学の統合により発足した国内唯一の海洋系大学。「人類社会の持続的発展に資するため、海洋を巡る学問及び科学技術に係わる基礎的・応用的教育研究を行う」ことを理念に掲げ、海洋に関する高等教育を推進
- ・「海を知り、海を守り、海を利用する」ための教育研究の中心拠点となり、我が国の海洋立国としての発展、国際貢献の一翼を担うことが重要な使命
- ・研究者を含む高度専門職業人養成を核として、海洋に関する総合的な教育研究を実施





東京海洋大学ビジョン2040

～ 海洋、その先の未来へ ～

Beyond the Future of Marine Science and Technology

1 教育分野

独創的かつ実学重視の教育プログラムにより、学修成果を実感できる質の高い教育を保証するとともに、国内外の多様な組織との連携によってインクルーシブ社会を先導する異分野融合的な総合知を備えた人材を輩出する。

2 研究分野

自然と調和した持続可能な社会の実現に向けて、海洋関連産業との緊密な協働により、先進科学技術を駆使したイノベーションを創出するとともに、その社会実装を推進するための研究を行う。

3 国際化分野

地球規模の教育・研究ネットワークを構築し、国内外のステークホルダーとの共創に適した環境を整備し、知と人材の集積拠点を実現する。

4 社会・地域連携分野

Society 5.0の実現と知識集約型社会への移行を踏まえ、国内外の地域共創拠点の醸成を主導し、社会変革や海洋産業の発展に貢献する。

5 管理運営分野

高度なユニバーシティ・ガバナンス体制を確立し、法人経営のための人材育成を計画的に行う。また、様々な財源を確保し、大学が持続的に成長する経営モデルを確立する。教職員については多彩な人材を登用し、適切な育成と業績評価によって、各人が自らの能力を存分に発揮できる職場環境を実現する。

最近のトピックス①

◆ビジョン2040の策定

本学の進むべき中長期的な方向性を示すものとして、学長自らが取りまとめ、2022（令和4）年3月に公表。その行動計画「アクションプラン」を同年6月に、学長直轄の経営企画室にて策定・公表した。教職員一丸となり、海洋という独自の視点から未来を見つめ、より良い社会の実現に向けて取り組んでいる。

◆大学の世界展開力強化事業「OQEANOUS Plus（オケアヌス プラス）」の採択

大学の世界展開力事業とは、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力を強化するため、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の受入れを行う国際教育連携の取組を支援する事業である。本学は日中韓で実施してきたOQEANOUS（※）プログラムが、文部科学省による最終評価において最も優れた“S評価”を獲得したことをうけ、2021（令和3）年11月に「持続可能な海洋開発・利用を実現する高度専門職業人養成プログラムー オケアヌス プラス ー」が採択された。本学のグローバル教育研究を支える事業として力強く推進している。

（※）Oversea Quality-assured Education in Asian Nations for Ocean University Students の略

最近のトピックス②

◆キャンパスマスタープラン2022の策定

土地の有効活用を含む中長期的キャンパス整備指針である「東京海洋大学キャンパスマスタープラン2022」を2022（令和4）年2月に策定・公表。このキャンパスマスタープラン2022に基づき、2023（令和5）年6月には、民間事業者と「東京海洋大学（品川キャンパス）国際混住寮整備事業」の事業契約を締結し、グローバルな教育・研究環境を形成するため、日本人学生や外国人留学生、外国人研究者が共に生活する国際混住寮の建設に向け大きく前進した。2026（令和8）年2月に建物竣工、同年3月に建物利用開始している。

◆海の研究戦略マネジメント機構の設置

本学全体の研究活動について、基礎研究から社会実装まで一貫した研究マネジメントを行い、戦略的に海洋分野の研究を推進していくことを目的に、産学・地域連携推進機構と研究推進委員会を統合し、2024（令和6）年3月に「海の研究戦略マネジメント機構」を創設した。

◆4学期制（クォーター制）、105分授業の導入

2024（令和6）年4月から、授業時間を90分から105分に変更し、前学期を第1・第2クォーター、後学期を第3・第4クォーターに区分した4学期制（クォーター制）を導入した。この変更により、学生の夏季休業期間を現行より長く確保し、海外留学や中長期インターンシップなどの学外学習の修学面の改善を図っていく。

キャンパスの位置

都心に近い品川・越中島という好立地



品川キャンパス

JR線、東海道新幹線及び京浜急行線「品川駅」港南口（東口）より正門まで徒歩10分
東京モノレール「天王洲アイル駅」からふれあい橋をわたり正門まで徒歩15分
りんかい線「天王洲アイル駅」からふれあい橋をわたり正門まで徒歩20分

越中島キャンパス

JR京葉線・武蔵野線「越中島駅」（各駅停車のみ）2番出口徒歩2分
地下鉄東西線、大江戸線「門前仲町駅」4番出口徒歩10分
地下鉄有楽町線、大江戸線「月島駅」2番出口徒歩10分

教職員数と事務職員数の男女比

主に船員さん
その他実験・実習の技術的な
支援をしている職員 など

年度	教職員数 合計	教員	事務職員			技術職員	医療職員
			男	女	計		
令和3年度	476	250	75	65	140	81	5
令和4年度	466	243	71	66	137	81	5
令和5年度	466	234	76	68	144	83	5
令和6年度	473	238	74	72	146	84	5
令和7年度	469	234	71	74	145	85	5

事務職員の男女比は
ほぼ 1 : 1

※再雇用職員を含む。役員は含まない。

事務組織



事務職員の業務（財務部）

財務課

予算編成・配分・執行管理、概算要求、決算、財務諸表作成、財務分析、収入・支出、資金・債権の管理 など

研究推進課

研究支援全般、産学連携、発明及び特許、公開講座、受託研究・共同研究・寄附金・受託事業等の契約 など

経理課

謝金及び旅費の経理、財務会計システムの管理運用、物品購入、契約、練習船の修繕工事、物品管理、外部資金の経理 など

施設課

施設整備（工事及び保全業務などの維持管理）、
工事の契約、財産の管理・処分、職員宿舍 など

キャンパス整備企画課

土地の有効活用、キャンパス整備の企画調整 など



令和2年度に33年ぶりに代船建造した汐路丸IV世



東京海洋大学（品川キャンパス）青鷹寮

事務職員の業務

越中島地区事務室

越中島地区の事務の総括・連絡調整、越中島地区に所属する教員の出張・休暇手続き、**越中島地区の施設維持管理**、越中島地区の教務・学生支援・入試業務補助、海洋工学部教授会 など

校友室

校友会事務局の総括 など

監査室

監事業務の補佐、外部監査、内部監査、会計検査院対応 など



事務室がある越中島キャンパス一号館

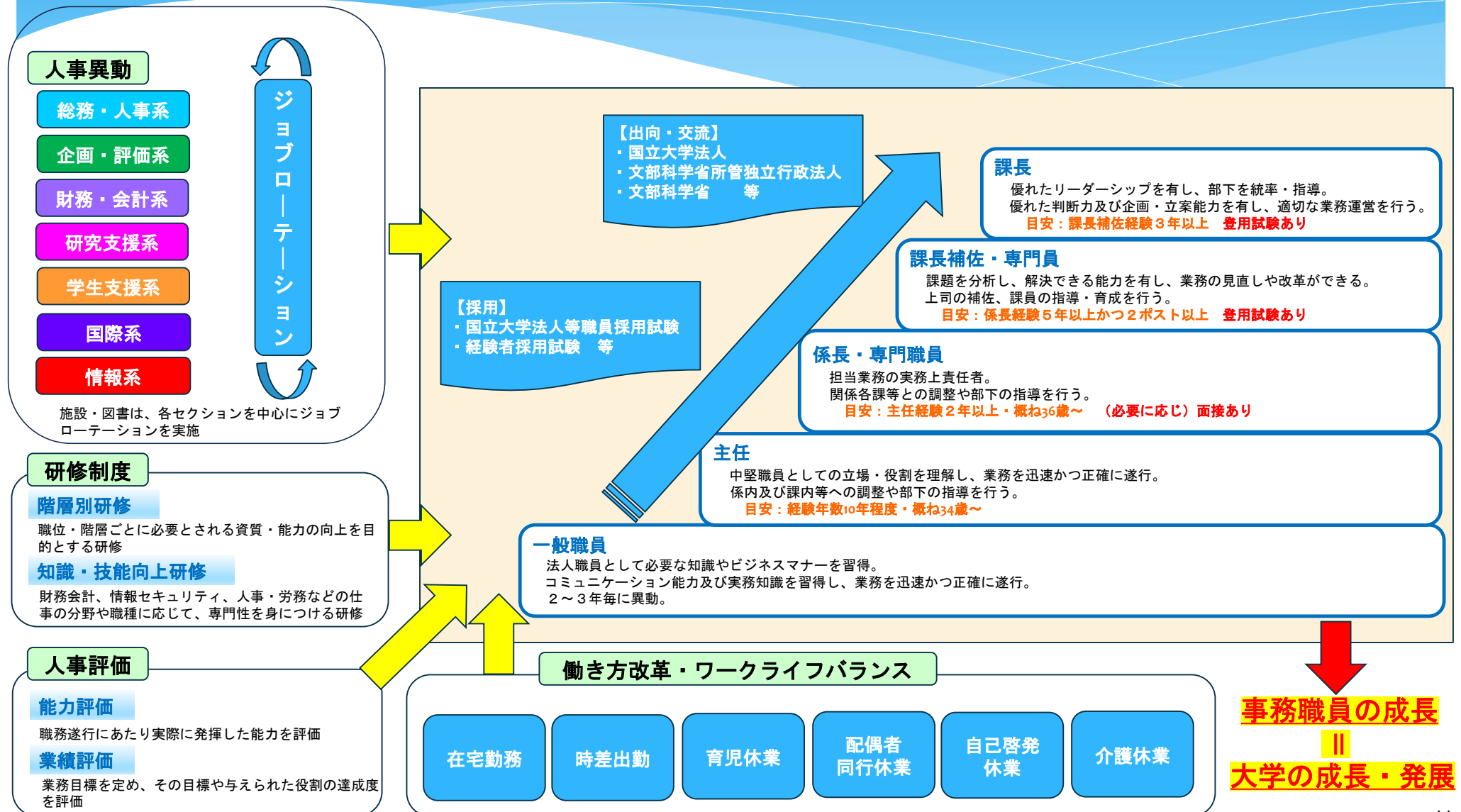


越中島会館1階資料コーナー

事務職員等のキャリアパス

大学は 1) 人事異動、2) 研修制度、3) 人事評価 を柱に人材育成

職員は ライフステージに合わせた多様な働き方で一人一人がキャリアプランを形成



給与・勤務条件・福利厚生

給与・賞与	初任給：大学卒業 月給278,000円～ 修士修了 月給290,000円～ 博士修了 月給302,000円～ ※地域手当20%含む。職歴の有無等によって異なります 昇給：原則 年1回（1月） 賞与：年2回（6月、12月）
諸手当	通勤手当（上限150,000円/月）、住居手当（上限28,000円/月）、扶養手当、超過勤務手当 等 ※所定の要件を満たしている場合に支給
福利厚生・宿舍	文部科学省共済組合（健康保険、厚生年金）、雇用保険加入、労災保険、 越中島に単身用・世帯用宿舍あり ※空室状況により入居できない場合があります
勤務地	品川キャンパス（港区）、越中島キャンパス（江東区）
勤務時間	原則 8時30分～17時15分（休憩 12時00分～13時00分）
休日	土曜日、日曜日、祝日及び年末年始（12月29日～1月3日）、その他学長が指定する日
休暇	年次有給休暇（年間20日（初年度は採用月によって異なります）） 特別休暇（リフレッシュ休暇（3日間）・夏季一斉休業（4日間）・結婚・出産等） 病気休暇
休業	育児休業（満3歳まで） 介護休業、自己啓発休業、配偶者同行休業

研修制度

人材育成のため、キャリアパスに応じて様々な研修を用意しています。

階層別研修

- ・新採用教職員研修
 - ・三大学等事務系初任職員研修
 - ・職員階層別研修（課長級、副課長級、係長級）
 - ・関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修
- 等

知識・技能向上研修

- ・ **国立大学法人等施設担当職員研修会**
 - ・ 国立大学法人会計基礎研修
 - ・ 学生相談に関する基礎研修
 - ・ 公文書管理研修
 - ・ 関東・甲信越地区及び東京地区実践セミナー（財務、広報、人事・労務、産学連携）
- 等

その他の研修

- ・【啓発】長時間労働対策研修
 - ・【〃】ハラスメント防止研修
 - ・【派遣】文部科学省等交流機関出向研修
 - ・【海外】事務職員研究プロジェクト同行等研修
- 等



施設系技術職員の主な業務 長期計画から維持保全まで

長期計画

- キャンパスマスタープランの策定
- 中期目標・中期計画の策定
- アクションプラン, マニュアルの策定

工事監理

- 工程, 安全, 品質管理
- 定例会議の開催
- 各種検査の立会

計画

- 現地調査
- 関係官庁との協議・調整
- ユーザーヒアリング

完成

- 完成・引き渡し
- 省エネ等の達成目標調査

実施設計

- 基本設計書の作成
- 自前設計
- 設計コンサルタントとの調整

維持管理

- 定期点検・定期報告
- 予防保全計画の作成
- 修繕計画の作成, 実施

計画から完成までは数年。完成後は、建物を取り壊すまで、良好な状態に維持向上させていくことが施設系技術職員のミッションとなっています。

東京海洋大学が求める人材

多様な人材が、専門や個人の特徴を活かす、
得意分野で活躍していくという体制へ

（「VOYAGE」学長メッセージより）

- ・ 組織として達成すべきミッションを理解できる人
- ・ 職員一人一人が大学運営の重要な担い手であるとの自覚と自負を持ち、自ら考え、責任を持って主体的に業務を遂行できる人
- ・ 自己の能力開発に積極的に取り組む人
- ・ 変化に柔軟な対応ができる人
- ・ 多様な人々との協働・コミュニケーションが図れる人
- ・ 将来的に管理職ポストへの昇任意欲があり、その職責への適性が期待される人

